

大雑把にいって日本の人の感染率は、年齢に%を付けたものが目安になります。50歳なら50%、60歳なら60%と高まっています。逆に10歳未満では5%ぐらい、10代で10%ぐらいということです。

—検査はどのように行いますか。

木村 ピロリ菌の感染の検査には、内視鏡検査の際に細胞を採取して検査する方法のほかに、呼気や尿、便や血液を用いて行うものがあります。

中でも尿中抗体検査は、一番簡単で安い検査法です。キットがあればどこでも



右からマーシャル教授、ボランティア被験者のエリザベスさん、木村先生

でき、20分ぐらいで結果が出ます。ただし、抗体の有無を見る検査なので、過去に感染があつたかどうかはわかるのですが、除菌治療がうまくいったかどうかの判定には使えません。それに対して、試薬を飲んだ後に息を採取し、それを特別な器械にかけて調べる呼気検査は除菌の判定にも使えます。ただし、器械がないところでは判定を外注しなればならず、時間がかかるのが難点です。

胃潰瘍・十二指腸潰瘍と確定された人しか、検査や除菌に健康保険がきかないことも問題ですが、それ以外にも混合医療の禁止という問題があります。例えば胃に何か症状があつて内視鏡検査をして、自費診療でいいから同時にピロリ菌検査をしようと思っても、高額な内視鏡検査まで全額自己負担になってしまふのです。「日を改めてピロリ菌の検査だけに来てください」と言わなければならない現在の制度は、問題がありすぎます。早急に保険の範囲を拡大すべきでしよう。

—全額自己負担で行った場合の検査や除菌の費用はどの程度のものですか。また、副作用はどうなのでしょう。

木村 田村クリニックでは、尿検査だけなら初診料も含め4125円です。そこで陽性となり、除菌治療を行うとなれば、

7日間の薬の服用で除菌します。尿検査による感染診断、一次除菌、呼気検査による判定と診療費を含め、自費診療でも負担は3万円程度で收まります。医療機関によつて検査の仕方など違いも大きいので目安にしてください

除菌に際しては整腸剤や胃の粘膜保護剤などを併用しますので、軟便、下痢、便秘などの症状が若干見られるほかは、ほとんど副作用はありません。除菌は失敗することもあり、二次除菌を行うこともあるのですが、当院では9割以上の方が1回の除菌で成功されています。

強酸性の胃の中に生息するピロリ菌は、アルカリ性のアンモニアを生成し、周囲の胃酸を中和しながら生きています。除菌されると酸性の強い胃液が正常に分泌されるようになることで、例えば逆流性食道炎の患者さんは、症状が一時的に悪化する場合もありますが、ガスターなどH2ブロッカーの短期服用で改善します。また、胃が本来の状態に戻ることで食欲が増して、体重の増加、コレステロールや血糖値が高くなる傾向があります。このようなリスクをお持ちの方は、食生活のいっそうの注意が必要です。

—私はこれまで毎年、慢性萎縮性胃炎の診断を受けていましたが、ピロリ菌の